



法律文化社 六〇年の歩み

法律文化社創立60周年記念冊子 春号

● 目次

60年の歩み・あいさつ

話題の本5冊

60周年記念出版

60周年記念企画の紹介

法律文化社と憲法

08年の新刊

法律文化社とは…

法律文化社60年の歩み

46 (昭和21年)	雑誌『法律文化』創刊 創始者・吉川大二郎(事務所：大阪市北区樋上町) 株式会社法律文化社設立 書籍の刊行をはじめ 創設者・亀井蒨
48 (昭和23年)	「新文化叢書」「新文化選書」を企画開始 大隅健一郎・吉川大二郎「独占禁止法注釈」、 浅井清信・西村信雄「労働基準法注釈」(第 1号出版)
50 (昭和25年)	大阪から京都に事務所を移転(左京区吉田牛ノ宮町) 『法律文化』第5巻第3・4号をもって休刊
51 (昭和26年)	沼田稲次郎「法と国家の死滅」、末川博監修「現 代法学講座Ⅰ」
54 (昭和29年)	事務所移転(左京区吉田近衛町) 山崎時彦「近代政治思想史概説」、小松撰郎「西 洋哲学史入門」
59 (昭和34年)	事務所移転(北区紫野宮東町) 毛利興一「刑事訴訟法序説」、吉川大二郎「判例保全処分」
66 (昭和41年)	現在の社屋を建設・移転(北区上賀茂岩ヶ垣内町) 鈴木安蔵「日本憲法学の生誕と発展」、渋谷寿夫「生 物学入門」、有地亨「家族制度研究序説」
67 (昭和42年)	亀井蒨社長死去、中村朱作社長就任 鈴木安蔵編「現代福祉国家論批判」、沼田稲次 郎「労働法要説」、吉川経夫「刑事立法批判 の論点」、矢崎光園編「現代法思想の潮流」
70 (昭和45年)	出版点数500冊を超える 『堺利彦全集』(全6巻)刊行開始
72 (昭和47年)	中村朱作社長死去、柴田穰社長就任 『現代の人権双書』(全12巻)刊行開始

社会・出版界の動き

46年	日本国憲法公布
51年	サンフランシスコ講和条約、日米安保条約
53年	出版物の再販制適用
54年	自衛隊発足
60年	日米安保条約改定
68年	大学紛争
70年	新著作権法成立
71年	出版物売上5000億円を超える
73年	オイルショック

創設六〇周年をむかえて

代表取締役社長 秋山 泰

おかげをもちまして、弊社は、今年で創設(法人化)六〇周年をむかえることができました。一九四六年(昭和二十一年)に、雑誌『法律文化』を創刊したことが出発点ですが、株式会社組織にして、書籍を発刊し始めたのが四八年(昭和二十三年)です。それから数えて今年が六〇年目になる次第です。

事実上の創始者である吉川大二郎が立命館大学法学部教授であったこともあり、当時の立命館大学法学部の先生がた(末川博先生、浅井清信先生、西村信雄先生、園部敏先生、佐伯千仞先生など)のご支援のもとに出版活動を始め

76 (昭和51年)	「現代法双書」刊行開始(現在継続中) 「選書現代の生活と社会保障」(全10巻)刊行開始	76年	出版物売上1兆円を超える
81 (昭和56年)	1000冊を超える 「現代日本の構造選書」(全5巻)刊行開始	80年	新再販制度に移行
84 (昭和59年)	「現代憲法大系」(全15巻)刊行開始 「現代民法講義」(全6巻)刊行開始	89年	消費税(3%)導入 出版物売上2兆円を超える
89 (平成元年)	「NJ叢書」刊行開始(現在継続中)		
90 (平成2年)	1500冊を超える 井上重信社長就任 法律文化ベシック・ブックス(HBB)刊行開始 (現在継続中)、「民事保全講座」(全3巻) 2000冊を超える 岡村勉社長就任 「aブックス」刊行開始(現在継続中)	91年	ソ連邦の崩壊
92 (平成4年)			
96 (平成8年)		97年	売上初めて前年割れ 消費税5%に変更
97 (平成9年)			
98 (平成10年)			
00 (平成12年)	「プリメル民法」(全5巻)(aブックス) 「吉川経夫著作選集」(全6巻)刊行開始 2500冊を超える 「講座社会保障法」(全6巻)	01年	再販制の存続決まる／鈴木書店倒産 ニューヨークで同時多発テロ
01 (平成13年)			
04 (平成16年)	「グローバル時代の平和学」(全4巻) 「ハイブリッド民法」(全5巻)刊行開始 3000冊を超える。秋山泰社長就任 会社創設60周年 「対論憲法を／憲法からラディカルに考える」 を60周年記念出版として刊行	03年 04年 05年	個人情報保護法の成立 出版物売上8年目にしてプラス成長 再びマイナス成長 文字・活字文化振興法成立
06 (平成18年)			
07 (平成19年)			
08 (平成20年)			

ました。

今日にいたるまで、社会科学・人文科学の新たな学問動向をふまえた書籍、そのときどきの時代の問題を反映した争点を提起するような書籍、また大学教育に対応した教科書等の刊行を行ってまいりました。

その間、総発刊点数も三〇〇〇点を超えるにいたっております。

弊社では、今後とも、法律書を軸としながら、人文社会科学全般にわたって、研究・大学教育・大学院教育に役立つ書、市民にひろく読まれる書、を発刊してまいりたいと存じます。

引き続き、読者のみなさまがたの暖かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

話題の本5冊 part 1

1948年9月、法律文化社発行の第1号の書籍『独占禁止法注釈』（大隅健一郎・吉川大二郎著）が誕生しました。それから60年。3000点を超える書籍が法律文化社の名を背負って世の中に送り出されました。その中から、お薦めの、あるいは小社の金字塔となるべき、もしくは学界や世間で好評を博した、そんなとおきの5冊を紹介します。

哲学原論



武市健人・山本英一編
(1960年)

本書の奥付上には検印紙が貼つてある。一見ベルマーク風の鐘の上に武市の刻印。一九六〇年五月第一刷。一九九六年三月第三七刷。法律文化社最多の重版数を誇る本書は、当時の神戸大学の教員を中心に編まれた哲学の教科書、入門書である。「基礎論」、「概論」、「原理論」の三つの意味をこめての『原論』の命名であり、概論と哲学史とを組み合わせたところに本書の特色がある。活字の大小で内容と見た目にメリハリをつけ、現代哲学の問題を重点的に解説、そして哲学の真髄に触れ、関心をもつてほしいという執筆者の学生への熱い思い……。半世紀前も今も教科書の基本はそう変わらないようだ。

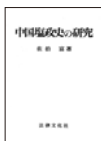
大学立法批判



末川 博 編
(1969年)

一九六八年から巻き起こり全国に波及していった大学紛争に対し、事態の収束を大学の自治ないし自主的な收拾に委ねるのではなく、立法措置によって上からの規制が必要であるとして「大学の運営に関する臨時措置法」（いわゆる大学立法）案が国会に上程された。本書は、大学立法の歴史、法案の逐条批判、関係資料をふまえて、その大学立法案が、大学の自治を侵害するものであるとの批判を展開し、瞬く間に増刷を重ね大学関係人をはじめ一般に広く読まれた。時宜にかないうく売れた本のわが社の代表といえるだろう。

中国塩政史の研究



佐伯 富著
(1987年)

著者の五十余年におよぶ研究の結晶である本書に対して、一九八九年恩賜賞・日本学士院賞が授与された。人間の生活に欠くことのできない塩が中国王朝の盛衰に大きくかわつてきたことを政治、社会、経済の多方面にわたる堅実精緻な学風で立証。塩法に関する膨大な資料を書き下ろしで収載した本文は八〇七頁、項目ごとに説明を加えた詳細な索引は一〇五頁におよぶ。古代から清代までの各王朝の裏面史が浮き彫りにされ、中国や台湾の学者からも「貴重な研究成果」と高く評価されている。

規制が支える自己決定



西谷 敏 著
(2004年)

「自己決定権」が現代社会のキーワードとして人口に膾炙したのは、現代が個人主義（個人尊重）の時代であることを示唆している。労働社会でも個人主義化は確実に浸透している。本書は、著者が、規制緩和と新自由主義の影響をうけ個人主義化した労働社会において、労働者の自己決定と国家的規制は二項対立するものではなく、双方補うことで有機性をもつと説いてきたことの理論的集大成である。労働法分野だけでなく、経済学・社会学・政治学などの他分野にも共有される問題を解明した力作である。刊行直後から各分野の研究者からの反響が大きく、話題の書となった。

刑事裁判の心

〔新版〕



木谷 明 著
(2004年)

裁判員制度導入を来年にひかえ、いま刑事裁判が注目を浴びている。著者は、長年刑事裁判官として、刑事裁判における「疑わしきは被告人の利益に」の原則、「事実認定の適正化」を現実にかす方法を、裁判実務の中で実践してこられた。本書刊行直後より、多くの読者から、「刑事裁判がいかにあるべきかわかった」「冤罪をなくすための方策を真摯に実践している裁判官の思いが伝わってくる」などの声が寄せられ、反響が大きかった。映画『それでもボクはやってない』では、周防正行監督が本書を参考にしたといわれている。刑事裁判を考えるうえでの必読の書である。



対論 憲法を／憲法から ラディカルに考える

● 四六判・288頁・2310円

退屈な(?) 憲法論議が、
かくも広がりと深まりを
もって私たちの思考を刺
激するのか。いまが旬の、
政治理論、憲法学、社会
学、法哲学の研究者が分
野を超えて対話する。国
家のゆくえを、教育を、
自由を、格差社会を、そ
してその根底にある憲法
を。そこから新たなパラ
ダイムがみえてくる。

目次

ブローグ (愛敬)
第一部 憲法は何のためにあるのか
——樋口陽一 × 杉田敦
〈基調論考〉それでも「公共」としての国家を (樋口)
／立憲主義・共和主義と政治 (杉田)
「国家」を今、どう論すべきか／国民の「飢餓感」
と改憲問題／国民の「飢餓感」にどう向き合うか／
「オム」と「シトワイアン」／戦後日本の教育はな
ぜシトワイアンの創出に失敗したのか／「民主主義」
から「立憲主義」へ／「行政権までの民主主義」を
めぐって／「国民国家」という境界／社会契約モデ
ルは「国民」の歴史的責任を免罪するのか／民主主
義のあり方をめぐって／国家と宗教／「個人の析出」
という課題

第二部 愛国心と教育——西原博史 × 北田暁大
〈基調論考〉民主制における個人の自律性と国民意
識のジレンマ (西原)／「反権力という権力」
とナショナリズム (北田)
現在の教育現場と「愛国心」／「愛国心」をめぐ
る思想状況・社会状況／「戦後民主主義」と教育／
「リスク」としての子ども／「エンジニアリング」
という発想／「戦後民主主義」と「国民国家」／平
和教育の行方／ほか
第三部 自由と福祉——井上達夫 × 齋藤純一
〈基調論考〉自由と福祉——統合原理としてのリベリズム
の再定義 (井上)／自由の相互承認としての憲法 (齋藤)
「自由」をめぐる／「公共」をめぐる／「福祉」
をめぐる／「制度」の構想をめぐる／憲法を
論じる視点
エピローグ (愛敬)

■ コーディネーター
■ 愛敬 浩二 (名古屋大学大学院教授)
■ 対論者
樋口陽一 × 杉田 敦
東北大学・東京大学名誉教授 (法政大学教授)
西原博史 × 北田 暁大
早稲田大学教授 (東京大学大学院准教授)
井上達夫 × 齋藤 純一
早稲田大学教授 (早稲田大学教授)

法律文化社 学術書60周年

憲法対論 ラディカルに

3部構成 来月出版

学術書の出版を始めて60周年を迎えた法律文化社（北区）が4月、記念出版として「対論 憲法を／憲法から ラディカルに考える」を刊行する。法学の専門家と、

鋭敏な社会学者や政治学者らによる討論の記録集。憲法記念日を前に話題を呼びそうだ。

対論は3部構成で、名古屋大教授の愛敬浩氏（憲法学）がコーディネーターを務めた。

第1部は、東京大名誉教授の樋口陽一氏（憲法学）と法政大教授の杉田敦氏（政治学）が「憲法は何のためにあるのか」と題して、立憲主義と民主主義は両立しうるかなどを語り合う。

第2部は、早稲田大教授の西原博史氏（憲法学）と東京大准教授の北田暁大氏（社会学）による「愛国心と教育」を巡る議論。戦後民主主義の教育からネット時代における愛国主義まで、幅広く論じる。

第3部は、東京大教授の井上達夫氏（法学）と早稲田大教授の齋藤純一氏（政治学）の「自由と福祉」に関する討論。

憲法の中にもとにある自由と平等の考え方はどこまで共存できるかなどについて語り合う。

対論に際しては論点を整理するため、双方の論者が意見をまとめた「基調論考」を読んだうえで臨んだ。各氏の論考も本

の中で紹介される。法律文化社の秋山泰社長は「専門分野の違う人たちが語り合い、予定調和的な対談とは異なる対論になった。今の憲法の是非を論じるだけでなく、根本から問い直す『発点にしたい』と話す。

▲朝日新聞2008年3月7日(朝刊京都版)

▼ただいま討論中



「難しいけど、面白い」

●『対論』に立ち会って

愛敬浩二

今でも友人から、「なんで憲法学者になつたの？」と聞かれることがある。メディアに溢れる憲法論議をみると、妙に政治的で、やけに感情的な議論ばかり、聞こえてくるからかもしれない。もちろん、イラク派兵問題や日の丸・君が代の問題、さらには改憲問題さえあるのだから、憲法論議が政治性を帯びるのは仕方ないと思う。けれども、

私が不満なのは、「憲法を考えること」の難しさと面白さを、現在のメディアが十分に伝えられていないことだ。

『対論 憲法を／憲法からラディカルに考える』は、憲法学・政治学・社会学・法学の分野から鋭敏な論客が集い、憲法をめぐって真摯な思索と対話を行った書物である。幸運にも、その場に立ち会うことができた私は、改めて「憲法を考えること」の難しさを痛感し、楽しさを発見した。だから、冒頭の質問にはこう答えたいと思う。「だって、難しいけど、すごく面白いからさ」。

60周年記念企画の紹介

60年を節目に、弊社がこれまでに培ってきたものをベースにしながら、新しい時代に積極的に対応していくことをめざした記念企画をたちあげました。今後、大学（大学院）の教科書、専門書、一般普及書の各分野で、いっそうチャレンジングな企画をすすめてまいります。

● 18歳からシリーズ

【体裁】B5判（横組）・100頁、120頁
見開き2頁6頁読み切り

【対象】大学生（初学者）、社会人

大学の新入生を対象に、高校までの勉強とはひと味違う学問のおもしろさを味わってもらうための入門テキストのシリーズ。

現代社会、とくに若者の世界では、インターネット、ケイタイ、iPod、コンビニなどの普及にみられるようにコミュニケーションのかたちやライフスタイルも変容してきています。そんな現代の若者の目線、興味・関心に配慮した工夫をこらしたいと考えています。大学生のテキストとしてだけでなく、若い世代の読み物として広く読んでほしいと願っています。

新しい《教養》（リベラルアーツ）のありかたが問い直されているなかで、本書がそれに一石を投じることができれば幸いです。

水島朝穂著『18歳からはじめる憲法』（08年10月刊）

櫻村志郎編『18歳から考える『日本の裁判』』（続刊）

萬井隆令・脇田滋編『18歳からはじめる労働法』（続刊）

● 社会保障・福祉理論選書

【体裁】A5判・250頁、300頁

【対象】大学生、大学院生、研究者

今日の不透明で混沌とした社会保障・社会福祉をめぐる状況を理論的に整理・検証し、その本質論にまで論及すること。さらに、今後を展望した理念とそれに相応しい制度・政策のありかたを考察・提示することをめざして企画しました。

取り上げる領域・対象は、社会保障・社会福祉分野にとらわれず、政治学や法学などその周辺領域、さらに哲学や倫理学など人文科学の領域をも含みます。

二一世紀の福祉国家、社会保障制度、社会福祉が直面している課題を横断的に解明するシリーズとなれば幸いです。

● 講座 人権論の再定位

【体裁】A5判・250頁
【対象】一般読者、大学生

法学・憲法学だけではなく、ひろく社会人文諸科学の知見をふまえて「人権を問い直す」「人権を考え直す」企画として立ち上げました。

現代の思想状況および経済・政治状況（グローバル化、新自由主義、格差・不平等・貧困化社会、改憲問題）をふまえ、時代状況に応える人権理論の視座を提供する講座をめざしています。

法律文化社と憲法

法律文化社という社名は、終戦直後の1946年8月創刊の雑誌『法律文化』に由来しています。「我国の健全なる民主的再建の為に」編集された同誌の精神は今日まで脈々と受け継がれ、なかでも憲法分野では、多様な書籍が綺麗星のごとく並んでいます。幾つかを紹介しましょう。

現代の人権双書 全12巻

沼田桶次郎・星野安三郎監修

四六判・上製カバー・平均300頁

(1972～82年)

国民の人権の危機意識は、私たちの暮らしを守り、向上をめざす原点である——1970年代、第一線の執筆陣が「自由・権利とは何か」をめぐる、法的側面から鋭い分析と洞察を加えた画期的な双書。

- 1 平和に生きる権利
星野安三郎 1575円
- 2 民族の基本的権利
國吉忠郎・長川正安編 1050円
- 3 人権の歴史と展望 (増補版)
下山瑛二 2940円
- 4 自由に生きる権利
小林孝輔 (品切)
- 5 治安と人権
吉川経夫・小田中聰樹 1575円
- 6 労働運動の権利
沼田桶次郎 1260円
- 7 しあわせに生きる権利
初井常喜・坂本重雄 1260円
- 8 公害と人権
牛山積・河合研・清水誠・平野衛 (品切)
- 9 経済生活と人権 豊かに生きる権利改題全訂版
宮坂常助・北野弘久共編 2625円
- 10 国民の教育権 (改訂版)
永井憲一 (品切)

現代憲法大系 全15巻

小林直樹監修

A5判・上製函入・平均380頁
(1984～2007年)

日本国憲法の諸条項の意味と機能をあらゆる角度から明らかにし、その理念と社会的現実との関係の移り変わりを描き出した大いなるモニュメント。

- 1 国民主権と天皇制
針生誠吉・横田耕一 (品切)
- 2 憲法と平和主義
山内敏弘・太田一男 4725円
- 3 平等の権利
阿部照哉・野中俊彦 3150円
- 7 生存権・教育権
中村睦男・永井憲一 3360円
- 9 憲法と議会制度
杉原泰雄・只野雅人 5670円
- 10 憲法と行政権
手島孝・中川剛 3675円
- 11 憲法と裁判
樋口陽一・栗城壽夫 3360円
- 13 憲法と地方自治
小林武・渡名喜康安 5145円

*第13巻をもつて最終配本とさせていただきます。

- 11 女性の権利・婦人の権利 (改題新訂版)
坂本福子 2940円
- 12 住民自治の権利 (改訂版)
高木鉦作編 (品切)

「新」どうなっているに日本国憲法

—憲法と社会を考える—

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆編著

●B5判 118頁・2415円 (2002年)

1990年の初版発刊以降、憲法の教科書としてトップの採用数を誇る。50のテーマを、市民の目線で見開きの「資料と解説」でわかりやすく説く。

「ヒロシマと憲法」(第4版)

水島朝穂編著

●A5判 296頁・2940円 (2003年)

「オキナワと憲法」問い続けるもの」

仲地博・水島朝穂編

●A5判 252頁・2835円 (1998年)

世界の「ヒロシマ」、「放置」され続けた「オキナワ」は「憲法」を求め、憲法とは何かを問う地である。それぞれ固有の歴史と文化と現実と根ざした具体的な問題に焦点をあて、それを憲法の視点から検討。この2冊は生きた憲法の学習書でもある。

改憲論を診る



改憲論を診る
水島朝穂編著 (2005年)
A5判・250頁・2100円

●法律

- 現代中国法講義(第3版)
西村幸次郎 編 3045円
- 対論憲法を／憲法から
ラディカルに考える 2310円
樋口陽一×杉田敦／西原博史×北
田曉大／井上達夫×齋藤純一／
コディネーター…愛敬浩二
- 憲法の基本 2625円
小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子
- クローズアップ憲法 2625円
小沢隆一 編
- 人権入門 2205円
横藤田誠・中坂恵美子
- 民法入門の入門1 財産編(第2版)
中川淳 編 2205円
- ブリメール民法1 民法入門・
総則(第3版) 2940円
安井宏・後藤元伸・中田邦博・鹿野菜穂子
- ベリシック民法総則 2100円
尾崎三芳

消費者民法のすすめ(補訂3版)

- 石田喜久夫・田中康博 補訂 2625円
- レクチャー消費者法(第4版)
長尾治助 編 2835円
- 代理法の研究
高森哉子 12600円
- 民事紛争と手続理論の現在
〔井上治典先生追悼論文集〕
河野正憲・伊藤眞・高橋宏志 編 14700円
- 刑事政策学の体系
前野育三・生古稀祝賀論文集刊行委員会 編 12600円
- 国際人権入門 2730円
横田洋三 編
- ケースで学ぶ国際私法 3360円
野村美明 編著
- ライフステージ社会福祉法 3045円
大曾根寛 編
- 都市法概説 3360円
安本典夫
- 中国の環境問題と法・政策 6090円
北川秀樹 編著

転換期の法と文化

京都学園大学法学会 編 7350円

●政治

- グローバル化時代の政治学
加藤哲郎・國廣敏文 編 6510円
- グローバル化とアメリカのヘゲモニー
中谷義和 4200円
- 中国外資導入の政治過程
下野寿子 5670円
- 経済・経営・産業
「公民」が苦手だった人のための
現代経済入門講義
高橋勉 1890円
- ネットワーク時代の経済分析改訂版
小川雅弘・品部久志・藤川清史 編 3255円
- 消費生活を考える 1470円
西村多嘉子
- ホスピタリティ精神の深化
山上徹 2415円
- ドラッカー再発見 2625円
坂本和一
- ポストグローバリズムの時代を生きる
向壽一 2100円

●社会保障・社会福祉

- 変貌する世界と日本の年金
江口隆裕 3360円
- 現代日本の介護保険改革
森詩恵 3255円
- 住民主体の地域福祉論
井岡勉 監修／牧里每治・山本隆 編 3360円

●教育

- 教育概論(4訂版)
田原恭蔵・林勲 編 2415円
- 教育の原理(第2版)〔Q&A教育学〕
林勲 編 2415円

●薬学

- 社会薬学への招待
長嶺幸子 編著 2835円

●学会誌

- 民事訴訟雑誌54号 2835円
日本民事訴訟法学会 編
- 日本労働法学会誌111号 2835円
日本労働法学会 編
- 社会保障法23号 3465円
社会保障法学会 編
- 社会政策学会誌19号 3150円
社会政策学会 編

08年下半期の新刊

18歳からはじめる憲法

水島朝穂

B5判・100頁

「18歳からシリーズ」第一弾。生きていくうえで「ためになる憲法」の習得をめざし、身近な出来事を題材にモノをみる力・考える力を養う。

裁判員のための刑事裁判入門(仮題)

村井敏邦

A5判・150頁

死刑制度の廃止や人権問題に積極的に関わり組む著者が、裁判員となる一般市民のために綴った入門書。最低限知っておきたい刑事裁判の知識を提供。

「社会政策」ワーク・ライフ・バランスと社会政策／「社会政策Ⅱ」少子高齢化と社会政策

玉井金五・久本憲夫 編

A5判・各280頁

歴史の変遷をふまえ、現代の到達点を明らかにする。社会政策の幅の広さをカバーし、全体の動きを把握した本格的な教科書。

国際結婚から日本がみえる(仮題)

(歴史編)(現代編)

嘉本伊都子

A5判・各180頁

国際結婚を通して日本社会を知る。変遷や実態分析だけでなく、情報リテラシーと歴史感覚・国際感覚を養う。

08年の新刊

■好評既刊書

新しい社会政策の課題と挑戦

全3巻

編集委員＝埋橋孝文・武川正吾・福原宏幸

A5判・平均280頁・各3465円

◎社会政策の再生と復権をめざして

〈今そこにある問題〉や〈新しく浮上してきた問題〉の本質を論究し、解決の道筋を描く。第Ⅰ部で歴史や理論を整理し、第Ⅱ部で日本の政策や事例を取り上げる。

法動態学叢書

水平的秩序 全4巻

A5判・平均266頁・各3990円

◎法学中心の学際的社会科学の構想

グローバル化・市場化の進む今日、「水平的秩序」に着目して、多様な「市場」「市場化」のダイナミズムを解明する新たな学問領域「法動態学」を構築。

1 規範と交渉

櫻村志郎 編

あらゆる人間的秩序関係において、秩序が水平的に構築されるための条件と限界を扱う。人々自身の手による秩序形成の様々な局面に光をあてる。

2 市場と適応

齋藤彰 編

経済的取引を中心に、取引による規律の拡大、市場の調整能力と法制度の関係を解明し、水平的秩序の持つ基盤性を検討する。

1 社会的排除／包摂と社会政策

福原宏幸 編著

ヨーロッパ諸国の社会的排除概念の発展と政策への影響を概観。ホームレス、母子世帯、不安定雇用の若者などを取り上げ、社会的排除概念の日本への導入と実践を紹介。

2 ワークフェア ●排除から包摂へ？

埋橋孝文 編著

80年代以降、多くの先進諸国が採用したワークフェア。その登場背景や特徴、波及的効果を分析、検証。

3 規整と自律

櫻村志郎 編

国家等の公的権力による「市場」の管理やそこへの介入という現象をとりあげ、水平的秩序化と垂直的秩序化の融合が顕著な領域を分析検討。

4 紛争と対話

山本顯治 編

水平的秩序化における当事者自律、対立する当事者間の対話と相互理解を基本に、その行動原理、支援する専門的援助者の役割、倫理責任を検討。

ワーキング・プアや就業困難者の事例から課題を多面的に論じる。

3 シティズンシップと

ベシック・インカムの可能性

武川正吾 編著

(8月刊)

最近の市民権をめぐる動向と実現への道筋を経済学・法学・政治学の立場から整理。財源を提示し、年金や児童手当を素材に日本でのBIの可能性を探る。

08年1～4月売上ベスト10

- ① 社会的排除／包摂と社会政策「新しい社会政策の課題と挑戦」
* 同シリーズ強し。第3巻は8月刊行。
- ② ワークフェア「新しい社会政策の課題と挑戦2」
* 「身近でリアルな問題を鋭く考察する興味深い一冊」
- ③ 法学部新入生のための学ナビ
* 毎年新学期のトップ。時系列に要点と心構えを指南。
- ④ 地球温暖化対策の最前線
* いま、最もホットな問題。日常の実践の手引き書。
- ⑤ プリメール民法1 民法入門・総則（第3版）
* 好評のプリメール民法。店頭で教科書で健闘。
- ⑥ テキストブック現代の法曹倫理
* 全弁協への働きかけが功を奏したか。法曹界で人気。
- ⑦ 刑事裁判の心（新版）
* 法曹界を中心に読みつがれるロングセラー。
- ⑧ 民事紛争と手続理論の現在
* 第一線で活躍する研究者による珠玉の31論文。
- ⑨ 立法学（新版）
* 法律のつくられ方を永田町と霞ヶ関から検証。
- ⑩ 消費税増税なしでの財政健全化
* 年金、医療費の財源は… 税制の抜本改革を考える。

学生気質今昔——教科書販売の観点から

大学の教科書が売れない時代になりました。私が入社した頃（約20年前）はまだ学生数も多く、教養科目では受講生500人以上の講義がいくつもあり、教科書の購買率も7～8割ぐらいたったと記憶しています。それが今では5割いけばよいほうです。

昔は教科書を買うのはあたりまえ、1年の終わりには線引きや書き込みだらけ、よれていたが、今どきの学生はいかに教科書を買わずにすませるか、安く手に入れるかに知恵を絞っているようです。また、先輩と後輩の関係も希薄になり、昔のよう

な教科書の譲り受けも減り、代わって教科書のリサイクル店の登場で古本を買う学生が増えています。

携帯電話、デジタルオーディオプレイヤー、ゲーム機、インターネットなど20年前にはなかったものが学生の周りにはたくさんあります。携帯電話に

使うお金はあっても教科書を買うお金はない？ 価値観が変わり、しんどいことは避け楽な受け身へとながされ、一人で自ら考え行動するということが苦手で、マニュアルがないとどうしてよいのかわからないという学生が増えたと感じます。

インターネットが普及した昨今では、講義の疑問点や演習の課題について資料を集めるため、以前なら図書館で調べていたことを、インターネットで調べるのがあたりまえになっています。なかには「検索でヒットしなかったのできませんでした」と指導教授を絶句させる学生もいるようです。

時代は変わり学生気質も変わりましたが、私たちは時代の要求にアンテナを張り、時代に受け入れられる教科書、そして学生を振り向かせる教科書を出版するため努力してゆきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（営業部 H）

法律文化社らしくないけれど……

社名ゆえか法律専門の出版社に思われがちですが、守備範囲は広く社会・人文科学におよび、これまでに隠れたヒット作を生み出しています。

■芸術学の語り部、宮下誠の世界



逸脱する絵画
[20世紀芸術学講義Ⅰ]
A5変形判・392頁・3780円



迷走する音楽
[20世紀芸術学講義Ⅱ]
A5変形判・340頁・3675円



「クラシック」の終焉?
—未完の20世紀音楽ガイドブック
A5判・200頁・1680円

■かゆいところに手が届く内容で、保育所現場で静かなブーム



保育環境評価スケール
①幼児版 ②乳児版
T・ハームスほか 榎橋玲子訳
B5判・約120頁・1890円

■身近な素材とユニークなイラストで大ヒット



経済がみえる元気がみえる
小沢修司著
全書判・222頁(品切)

■死への心構えを学び、今をよりよく生きるための必読書



私の「死への準備教育」
大町公著
四六判・232頁・2100円

編集者に求められるものは変わったのか!!

書籍の形態や利用の仕方は、長年にわたって変わっていません。では、同じように書籍を作る日々の編集作業も変わっていないのでしょうか。じつは、パソコンやインターネット(以下、ネット)の普及にみられる(デジタル時代)の到来により、編集者の作業は大幅に変わりました。

ここで編集者がどれだけデジタルに頼るようになったかの一例を示しましょう。以前は、企画を生み出すために必要な著者や類書の情報収集は、書籍や雑誌を読むというアナログ的作業で行っていましたが、デジタル時代には、ネットを通じてデジタル化された知的情報にアクセスすることが欠かせなくなりました。また、企画の相談や編集打ち合わせの依頼、さらには原稿の受け取りまでも、Eメールを利用する割合が圧倒的に多くなりました。

それでは、デジタル時代のなかで編集者に求められている力

量も変わってしまったのでしょうか。答えは「ノー(否)」です。書籍を購入せずとも、誰でもネット上で知りたい情報に簡単にアクセスできるようになり、マスメディア以外に個人でも情報発信がなされている情報過多環境にある今だからこそ、書籍という媒体を通じて、プロフェッショナルとして何をどのように編集し、読者に提供できるのかの力量がますます問われています。

書籍の形態やその利用のされ方が変わらないのと同様に、編集者に求められている力量の本質的なものは何一つ変わっていないと言っていると思います。デジタル時代の今だからこそ、編集者が本来持ち合わせているべき(ものづくりをする職人)として企画力(発想力、交渉力など)や編集力(想像力、コミュニケーション力、段取り力、校閲力など)をさらに高めることが求められていると思います。

(編集部 K)

ホームページをのぞいてみると

法律文化社のもうひとつの窓、ホームページの画面を紹介します。

新刊・近刊案内
最新の刊行情報をご提供します。

おすすめの本
文字どおり、今読んでいただきたいおすすめの本です。

検索画面
ジャンルごとの検索のほか、キーワード検索もあります。

売れ筋ランキング
毎月更新。その時々
の社会的関心がみえてきます。

書評紹介

コラム
時事的なネタをま
じえ、書籍にまつ
わる話を紹介。

読者の声
嬉しい声が届くこ
ともあれば、厳し
いお叱りの声も…。

上賀茂通信(ブログ)
社員がガリレー形式
で日々の仕事風景
をつづります。息抜
きがてらにどうぞ。

アクセスはこちらから <http://www.hou-bun.co.jp/>

法律文化社の本棚から——みえてくる造本の変遷

当社では、今までの発刊書籍を本棚に保存しています。その本棚を眺めていると、時代の移り変わりがみえてきます。

初期の頃は、上製で（しかも布クロス！）函に入っている本が多く、最近では、論文集や一部を除いてほとんどが並製でカバー巻きの本です。

函入りからカバー巻きの本に移り変わってきたのは、書店で本を手にとって内容を見る際の手間が煩わしいということや、アカデミックな感じがするもの、カバー巻きの本に比べて地味にみえるといった理由でしょうか。

そのカバーも、最近では以前のものに比べると見た目が華やかになってきています。十数年前までは、社内の者が飾り罫や電算記号などを駆使してカバーデザインを考えていたので、（素人だけに）デザインもいたってシンプルなものでした。最近ではカバーデザインを装丁家に依頼するようになり、随分とあかぬけました（でしょ？）。専門

家にお願ひするようになったのは、「お硬い」本を扱う法律文化社にとっても、装丁が造本上の重要な構成要素と位置づけられるようになったからです。

もう一方の、上製本から並製本への移り変わりは、様々な理由がありますが、一番はコストと時間の問題です。上製の製本工程は並製に比べ、数倍の手間がかかる（つまり↓製本代もかかる↓定価も高くなる）からです。

並製といえば、「数十年前、京都で最初にアジロ製本（糸綴りでない糊付製本に比べ品質は落とさず安価にできる製本方式）に取り組んだのはI製本で、その導入を依頼したのが法律文化社である」と、以前上司から聞いたことがあります。コスト意識をもちながら、製本へのこだわりをもつ作りが、次世代の私たちに伝わってきました。そういつた心構えは今後も常に持ち続けたいと思っています。

（製作部 N）

ソー“社”ルインクルージョン

掛川直之(編集部)

これまで常識とされていた一種の規範に生きづらさを感じる人間は、しばしば、それを是とするマジョリティから異質な他者として排除の対象とされる。

人びとは、聞こえのいい常識に魅力を感じ、共鳴する。だが、すべての人間がその常識という一つの枠内で生きていくことはできない。

わたくしは60周年をむかえた小社に籍を置き、まだ幾日も経たない新人である。根拠のない自信に起因する、いわゆる新人には似つかわしくない遠慮のない物言いは、その常識からは逸脱しており、排除の対象になりかねない。しかし、小社の諸先輩方は、そのような常識にとらわれることなく、わたくしの言葉に耳を傾け、時に厳しく

も、あたたく包み込んでくださる。

このようなリベラルな雰囲気有する小社において、わたくしがどのような仕事をし、諸先輩方とどのような仕事を成し遂げていけるかは、わたくし自身の研鑽にかかっている。61年目にむけて走り始めた小社とともに、日々精進していき

隗より始めよ

矢鳴修治(営業部)

中国の戦国時代、燕という国で生まれた言葉です。国を栄えさせるために賢者を求めた王に対し、郭隗という家臣が「まずは私を厚く用いてください。そうすれば、郭隗をあれほど優遇する国なら、優秀な人材はもっと優遇されるはずだ」と思っ

躍表舞台に踊り出るようになります。

私を郭隗のように扱えと言っているわけではありません。念のため。出版不況と呼ばれる現代、出版の仕事一つ一つを大事にすれば、きっと読者の皆さんにも伝わるに違いないということ

燕はその後、他国に滅ぼされることとなります。優秀な人材を疑い放逐した結果でした。60周年記念にしては縁起の悪い話です。ですが、法律文化社は読者の視点に立ち、社会に必要とされる本を作り続けることで、今後70周年、80周年、いや、それ以上の歴史を築いていくものと私は信じています。

■ご注文について

小社に直接ご注文いただく場合は、電話・FAX・メールをご利用ください。
またHPからもご注文いただけます。

- いずれも、クロネコヤマトのブックサービスにて、クレジットカードか代金引換でのお支払いとなります。

	お買い上げ金額 1500円未満			お買い上げ金額 1500円以上		
	送料	手数料	合計	送料	手数料	合計
カード払	300円	—	300円	0円	—	0円
代金引換	300円	200円	500円	0円	200円	200円

- ご注文をいただいてから4日～7日でお届けいたします。
- ご注文は、確実にお届けできますようご連絡先・お届け先・書名・冊数をご明記ください。折り返し、小社から代金・到着日等の確認のメールまたは電話をさせていただきます。
- お届け先は、日本国内のみとさせていただきます。

株式会社 法律文化社

〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71

電話 075-791-7131(代表) 075-702-5830(営業)／FAX 075-721-8400

E-mail: eigyo@hou-bun.co.jp URL: <http://www.hou-bun.co.jp/>